

令和 6 年度学校自己評価及び学校関係者評価表

【経営理念】 人間力を高め、夢と希望を育み、笑顔あふれる学校	評価		学校名：武蔵村山市立第八学校 校長名：牧 一彦
	A	十分に達成している。(80%以上)	【学校運営協議会・会長】 井上 一弘
	B	概ね達成している。(60%以上)	学校運営協議会（学校評価分）
	C	あまり十分でない。(40%以上)	第1回 令和6年 7月12日（金） 第2回 令和6年12月20日（金） 第3回 令和7年 3月 7日（金）

項目	計画・取組			自己評価（令和6年12月16日現在）				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度（%）	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	「全国学力・学習状況調査」並びに東京都及び本市による「児童・生徒の学力向上を図るための調査」等を通して、児童・生徒の学力の定着状況及び「学びに向かう力」等に関する意識を把握・分析する。	◇東京ベーシック・ドリルの内容の、7割以上の定着を図る。	○ベーシック・ドリル診断テストCにて、全児童の正答率が7割を上回っている。	39 (14)	C	宿題や授業内容の工夫が成果を上げ、児童の前向きな姿勢が見られる。一方、学習内容の確認が不十分で、5割程度の定着に留まっている児童が多い。正答率が低く、児童のやる気と学習内容の定着にギャップが見られます。	定期的な小テストを実施し、理解度を確認したり、授業の最後に復習の時間を設けたりして、学んだ内容を再確認する。	年々評価が落ちてきている。やる気があるのに結果が出ないので、やり方等については今後検討していく必要がある。なるほど塾は継続していけたら良い。	C
		◇期末テストを実施して、学習内容の定着を図る。	【全校共通】市学力調査にて、（小5）の平均正答率が同一学習集団の前年度値（小4時）を上回っている。	48 (▲2)	C	期末テストを実施することで苦手な部分が明確になり、2学期の平均点が1学期より微増した。テスト勉強に取り組む児童が増え、再テストに合格しようと努力している姿が見られる。一方、家庭学習の習慣が身に付いていない児童が多く、児童間の意欲に差が見られる。	保護者会等で保護者に家庭学習の重要性を説明し、協力を強く願う。家庭学習の成果を評価し、児童のモチベーションを高めるように努める。	結果がスムーズに伸びなくても、学習は積み重ねが大切。小テストから目標をたて、大きな目標の期末テストで達成感を味わえるようにすると良い。	B
豊かな心の育成	いじめ防止対策推進条例に基づき、いじめの未然防止及び早期発見、早期解決に向けた取組を推進する。 あらゆる偏見や差別をなくすため、全ての教育活動を通して人権教育を推進するとともに、学校・家庭・地域、関係機関と連携し、児童・生徒にいじめは絶対に許されないことを徹底して指導する。	◇週1回の生活指導夕会に合わせて、学年内で、いじめ認知の確認と、報告・協議を行う。 ◇月1回開催する「特別支援校内委員会兼いじめ防止対策委員会」で、いじめ認知の確認と、報告・協議を行う。	○児童アンケートや保護者アンケートにおいて、肯定的評価の割合が7割を上回っている。	84 (▲4)	A	週1回の生活指導夕会や月1回の特別支援校内委員会で、いじめの認知確認と報告・協議を行っている。保護者アンケートの結果、「分からない」と回答する割合が高く、保護者への啓発が必要である。	保護者会等を通じて、いじめの認知と対策について情報提供を行う。いじめ防止の意識を高めるために、児童へ再度指導する。定期的なアンケートを実施し、いじめの実態を把握する。	児童数が多いので大変な事が多いと思うが、細かく対応している。「いじめをしない優しさ」「いじめをとめる勇氣」を育てたい。	A
		◇「挨拶の励行」を推進する。(随時) ◇【徳育科】指導法、評価方法、指導資料や教材の開発を柱に、豊かな心の育成を図る。 ◇校外学習を徳育科の実践の場と捉え感謝の気持ちを言葉や態度で表せるようにする。	○児童アンケートや保護者アンケートにおいて、肯定的評価の割合が7割を上回っている。 ○教員の自己評価において、肯定的評価の割合が7割を上回っている。	92 (13)	A	徳育科のみならず、日常生活でも礼儀作法の指導を行い、教師自らが手本となって進んで挨拶をしている。一方、挨拶のできる児童とできない児童の差が目立ち、意識の向上が必要である。	授業の中でロールプレイを取り入れて、挨拶や礼儀作法を練習し、実践的に学べるようにする。教師が手本を示すことを継続し、日常生活の中で礼儀作法を意識させる活動を増やす。	以前に比べて最近は挨拶を返す児童が少ない。目を見て、笑顔で声をかけられれば、お互いが気持ちよくなる。	B
健やかな体の育成	児童・生徒一人一人の体力の向上及び健康の保持増進を図るため、学校・家庭及び地域が連携した体力向上策を推進する。	◇検診の際に行う保健講話により意識付けを図る。 ◇「ほけんだより」を発行して、保護者へ健康の保持増進について啓発する。	○児童アンケートや保護者アンケートにおいて、肯定的評価の割合が7割を上回っている。	67 (▲21)	B	検診の際に保健講話を行い、健康意識の向上を図ったり、「ほけんだより」を発行して保護者への健康啓発を行ったりしている。しかしながら、「早寝・早起き・朝ごはん」ができていない児童が多く、引き続き指導が必要である。	定期的に早寝・早起き・朝ごはんの重要性を確認する。保護者に対しても健康に関する情報を提供し、家庭での指導をお願いする。保健講話や「ほけんだより」を通じて継続的に啓発を行う。	早寝できない理由は、家庭内の影響が大きいため、学校としてはよくされていると思う。	B
		◇中休みの外遊びの奨励、長縄集会、体力向上月間、学級全員遊びの機会を充実させる。 ◇OJT夕会で体育指導を扱い、体育授業の充実を図る。	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小5）において総合評価「C」以上の割合が6割以上又は総合評価「C」以上の割合が令和5年度調査との比較で向上している。	78 (▲10)	B	中休みなどでは積極的に外遊びを推奨し、体を動かす習慣が身に付くように指導している。外で遊ぶ児童が多い一方で、教室から出て昇降口付近で話をしてしている児童が見られる。	外遊びの推奨を継続して行う。昇降口付近で集まっている児童については、教員から個別に声を掛けて、外遊びをするように促す。	身体を動かす機会をより多く作る工夫が素晴らしい。	B
まちづくり学習の充実	保護者や地域の方と連携・協力し、市の発展や課題について考え、問題解決に取り組む地域に根差した探究的な学習を通して、地域を知り、地域を大切にしたい思いを育むとともに、主体的に考え、自ら行動する力や他者と協働しながら挑戦する力等の育成を目指す。	◇地域人材を活用した授業を積極的に行うことと、地域との関わりを感じさせ、地域の一員として生きていこうとする態度を養う。	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的評価の割合が7割を上回っている。	69 (6)	B	地域の方々と連携し、ふれっチャクラブや水田学習などを通じて教育活動を進めている。保護者アンケートでは肯定的な評価が多いものの、「分からない」と回答する割合もあり、保護者への啓発が必要である。	ホームページや SNS 等を通じて活動の成果を保護者や地域に発信する。地域行事にも参加し、地域とのつながりを深めることに努める。	「八小お手伝いクラブ」により学校行事が円滑に進んでいる。学校と縁の無い地域の方に認識していただけるような方法が必要。	A
		◇主に【総合的な学習の時間】を活用して、地域の魅力を発信したり、社会科とも関連させたりしながら自分なりの「まちづくり」を提案する学習を行う。		62 (4)	B	総合的な学習の時間を活用し、地域の魅力を発信しながら自分なりの「まちづくり」を提案する学習を行っている。まちづくり学習を十分に行うためには、準備や事前の調整が必要で、教員の負担が増えることが課題である。	地域の専門家や外部講師を招き、学習内容を充実させたり、学習の成果を発表する場を設け、児童の達成感を高めたりする。まちづくり学習のための準備時間を確保し、教員の負担を軽減する。	本来なら地域で担う事を学校が肩代わりしている。地域の情報を多く得られるような協力者が必要。	A